平成30年度第1回千葉市障害者差別解消支援部会議事録

1 日時 平成30年11月26日（月曜日）午後7時45分～午後8時32分

2 場所 千葉市役所8階 正庁

3 出席者

（委員）田辺部会長、高山部会長職務代理、木村（辰）委員、斎藤委員、佐久間委員、
島田委員、鈴木（將）委員、高木委員、

（事務局）鳩川高齢障害部長、柏原障害者自立支援課長、松田障害福祉サービス課長、
高石精神保健福祉課課長補佐 他8名

計20名

4 議題

（1）部会長の選出について

（2）障害者差別に関する相談対応状況について（報告）

（3）障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施について（報告）

（4）その他

5 議事の概要

（1）部会長の選出について

委員の互選により、田辺委員を部会長とすることに決定した。

（2）障害者差別に関する相談対応状況について（報告）

事務局より説明があった後、質疑応答が行われた。

（3）障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施について（報告）

事務局より説明があった後、質疑応答が行われた。

（4）その他

6 会議経過 別紙のとおり

午後 7 時 4 5 分開会

(山内障害者自立支援課課長補佐) それでは、ただ今から、平成 30 年度第 1 回障害者差別解消支援部会を始めさせていただきます。

私は、本日、司会進行を務めさせていただきます、障害者自立支援課課長補佐の山内と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、会議に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

はじめに、「次第」、続いて「座席表」、「委員名簿」、資料 1 といたしまして「障害者差別に関する相談対応状況について」、資料 1 の参考といたしまして「千葉市における障害者差別に係る相談の流れ」、資料 2 といたしまして「障害者差別に関する相談事例について」、資料 3 といたしまして「障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施について」、参考資料 1 といたしまして「九都県市共通マークの導入による障害者支援の促進について」、参考資料 2 といたしまして「九都県市首脳会議の概要」、参考資料 3 といたしまして「STEP 1 合理的配慮の提供を容易にするマーク～主な合理的配慮の事例～」、参考資料 4 といたしまして「広報用チラシ」、参考資料 5 といたしまして「協力企業の窓口掲示物」、参考資料 6 といたしまして「アンケート項目」をお配りしております。

お手元にそろっておりますでしょうか。

それでは、会議に先立ちまして、高齢障害部長の鳩川より、ご挨拶申し上げます。

(鳩川高齢障害部長) 改めまして、高齢障害部長の鳩川です。

障害者施策推進協議会に引き続きよろしくお願ひいたします。

この部会は、平成 28 年 4 月の障害者差別解消法の施行に伴いまして、障害者差別に関する相談状況等を踏まえて、効果的かつ円滑に対応することについて、ご協議いただくことを目的に設置した部会でございます。

本日は、本年度、第 1 回目ということで、本部会の部会長をご選任いただくとともに、相談対応状況についての報告、また、現在実施中の幕張新都心・バリアフリーコミュニケーションについて、事務局から説明をさせていただきます。

委員の皆様には、障害者差別の解消に向けまして、いろいろな方面から専門的なご意見をいただければと思います。

簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(山内障害者自立支援課課長補佐) さて、本日は、平成 30 年度、初めての部会となりますので、ここで、私から、委員名簿の順に、部会委員の皆様をご紹介させていただきます。

はじめに、木村辰治委員でございます。

次に、斎藤博明委員でございます。

次に、佐久間水月委員でございます。

次に、島田貴美代委員でございます。

次に、鈴木将夫委員でございます。

次に、高木信宏委員でございます。

次に、高山功一部会長職務代理でございます。

次に、田辺裕雄委員でございます。

なお、木村章委員、菊地裕美委員及び河野功委員でございますが、本日は欠席との連絡をいただいております。

続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

初めに、先ほど挨拶いたしました、

高齢障害部長の鳩川でございます。

次に、障害者自立支援課課長の柏原でございます。

次に、障害福祉サービス課課長の松田でございます。

次に、精神保健福祉課課長補佐の高石でございます。

その他の職員につきましては、お手元の「座席表」にて、ご確認いただき、紹介は省略させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の部会は、千葉市情報公開条例第25条に基づき、公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入らせていただきます。お手元の次第をご覧くださいと存じます。

議題の(1)、部会長の選出についてです。

議事の進行につきましては、部会長が行うこととなっておりますが、部会長でありました土屋委員が退任され、部会長が不在ですので、部会長が選出されるまでの間、高山部会長職務代理に、進行をお願いしたく存じますが、よろしいでしょうか。

《委員より「異議なし」の声》

ご異議がないようですので、高山部会長職務代理に議事の進行をお願いしたく存じます。よろしくお願いいたします。

(高山部会長職務代理) 職務代理を行います高山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。部会長が選出されるまでの間、議事を進めさせていただきます。

部会長の選出につきましては、千葉市障害者施策推進協議会条例第8条第4項の規定により、委員の互選で定めることとなっておりますので、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っております。

はい、島田委員。

(島田委員) やはり、本部会の部会長は、地域福祉を推進している団体である千葉市社会福祉協議会の会長に就任されました、特に実績と経験がとても豊富でいらっしゃる田辺委員にぜひお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(高山部会長職務代理) ただいま、部会長に田辺委員を推選する旨のご提案がございましたが、いかがでしょうか。

《委員より「異議なし」の声》

(高山部会長職務代理) それでは、ご異議がないようですので、田辺委員に部会長をお願いいたします。

田辺部会長には席をお移りいただきまして、就任のご挨拶をいただき、議事の進行をお願いしたいと存じます。

(田辺部会長) ただいま、委員の皆様方にご推挙いただきました田辺でございます。皆様のお力をお借りしながら議事を円滑に進めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

議題の(2)「障害者差別に関する相談対応状況について」です。事務局から説明をお願いします。

(柏原障害者自立支援課長) 障害者自立支援課長の柏原でございます。

議題(2)、「障害者差別に関する相談対応状況」について、説明をさせていただきます。

お手元の資料1「障害者差別に関する相談対応状況について」をご覧ください。

上の表は、平成29年度の相談対応状況を示したものです。表の枠の一番下、合計欄ですが、相談件数は8件で、そのうち、事業者等への確認は3件、相談のみが5件となっております。

相談の種類別では、不動産取引に関する相談が3件と最も多く、次に、医療に関する相談が2件、建物・施設に関する相談、市職員に関する相談、その他が1件ずつとなっております。なお、実相談者数は8人です。

下の表は、平成30年度の上半期の相談対応状況を示したものです。表の枠の一番下、合計欄ですが、相談件数は6件で、そのうち、事業者等への確認は5件、相談のみが1件となっております。

相談の種類別では、建物・施設に関する相談、福祉サービスに関する相談が2件ずつ、商品サービスに関する相談が1件、その他が1件となっております。なお、実相談者数は6人です。

なお、本市における障害者差別に係る相談の流れについては、参考資料をご確認いただければと思います。

続きまして、資料2をご覧ください。障害者差別に関する相談事例についてご報告いたします。

相談者は、市立学校に通う児童生徒の保護者の方で、この保護者の方が障害のある方でした。

相談内容ですが、合理的配慮の不提供に関するもので、千葉市立の学校の児童生徒が参加する、スポーツ関係の部活動の大会を、保護者として観戦に行った際に発生した事例です。

この保護者の方は、事前に、障害者差別解消相談窓口、障害者自立支援課に設置している窓口ですが、電話をし、学校の教職員も障害者差別解消法に基づいて対応することを確認のうえ、大会運営者の教職員に合理的配慮の提供について、歩行が不自由であるので配慮をお願いしたいとの相談をしたとのことでした。

大会当日、要望していたとおり、駐車場が確保されており、その駐車場に車を停めて、会場の体育館に向かい、その後、会場内において、観戦にあたっての合理的配慮の提供を求めましたが、対応した教職員が関係法令と対応要領の存在を知らず、事前に依頼してい

た、歩行が不自由なことに対する合理的配慮が提供されない事態が起こったとのことでした。

相談者からは、今後、このような事態が起こらないよう、学校関係者に確認のうえ、改善策の検討を要望するとのことでした。

本市の対応ですが、千葉市立の学校の部活動であることから、市教育委員会と連携して事実確認をいたしました。

相談者からの説明のとおり、事前に、大会運営者の教職員に合理的配慮に関する相談がありました。すべての大会関係者間で情報共有がされていなかったため、当日、会場内で相談者が依頼していた合理的配慮が提供されなかったとのことでした。

また、現場で対応した教職員への障害者差別解消法の周知が不足していたことが判明いたしました。

そこで、市教育委員会において、改善策を検討するとともに、市役所の全職員、事業所や教育機関・学校を含む、すべての職場に対して、障害者自立支援課から対応要領の再周知を実施いたしました。

その後、相談者に対して、事実確認の結果、提供されるべき合理的配慮が不提供であったことを報告し、今後の大会運営の改善策を伝えました。

この事案への対応により、改めて、全庁的に障害者差別の解消に向けた周知を行ったところですが、今後も、引き続き、相談内容に応じまして、事業者や関係部局に状況確認のうえ、合理的配慮を促すなど、差別の解消に努めてまいります。

報告は、以上でございます。

(田辺部会長) ただいまの説明について、ご質問、ご意見等はございますか。

よろしいでしょうか。

追加で何か事務局からあればお願いします。

(柏原障害者自立支援課長) 障害者差別に関する相談については、件数が思ったより伸びていないと思っております。障害者差別解消法が平成28年4月から施行されましたが、千葉県では、その前から障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例を制定し、障害者差別に関する相談を受けている下地もございます。ただ、今の事例のように、ルールとはいっても、関係している自分のこと分野のルールは詳しくても、まだまだ障害者分野についてのこういった一般常識としてほしい対応は行き届いていないことは実際でございます。今後も市職員の研修などは、毎年続けていくべきことだと思っております。

また、各委員の皆さんの活動の中で、なかなか周知が行き届いていないということがありましたら、障害者自立支援課にお声かけいただきまして、そこから千葉市政出前講座のメニューの追加とか、いろいろな形で広報啓発を検討して参りたいと思いますので、今後も協力をお願いします。

(田辺部会長) それでは、ご意見もないようですので、以上で、議題の(2)を終わります。

次に、議題の(3)、「障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施について」に移ります。

事務局より説明をお願いします。

(柏原障害者自立支援課長) 障害者自立支援課長の柏原でございます。

議題(3)、「障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施について」、説明をさせていただきます。

本日の障害者差別解消支援部会では、九都県市の検討会で取り組んでいる、障害者が必要とする支援内容のマーク化について、現在、幕張新都心地区等で実施している「障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施」について、報告させていただきたいと思います。

なお、この取り組みですが、昨年度の第1回障害者差別解消支援部会において、報告いたしました。現在、九都県市首脳会議において、本市が事務局となって、障害者が必要とする支援内容のマーク化に取り組んでおりまして、平成29年5月9日の首脳会議で、千葉市が提案し、この検討会が設置されています。

参考資料1、こちらのA3版の資料は、昨年5月の会議で提案した資料となります。また、参考資料2は、九都県市首脳会議の概要となります。

それでは、資料3「障害者への合理的配慮を容易にする支援方法に関するモデル実施について」をご覧ください。

まず、1 合理的配慮を容易にする支援方法の取組状況です。障害の特性などの説明を要さずに、障害者やその家族などから、直ぐに合理的配慮の申し出ができるとともに、合理的配慮を求められた側から、コミュニケーションがとりやすいよう、合理的配慮を示すマークと、主な合理的配慮の事例集について、全国組織の障害者団体からの意見や要望を反映し、作成いたしました。それが今回添付しております参考資料3になります。

ここで、参考資料3をご覧ください。合理的配慮の提供を容易にするマークとして、その他も含め、9種類のマークに絞り込み、それぞれの状況に応じた主な合理的配慮の事例をまとめました。

視覚が不自由な方、聴覚が不自由な方、手や腕の動作が不自由な方、歩行が不自由な方、車椅子利用者、多機能トイレを利用されている方、複雑な表現が苦手な方、人混みや順番を待つことが苦手な方、その他の9種類です。

なお、このマークの検討にあたっては、本市の障害者団体の皆さんにも、要望を挙げていただき、その意見を反映して作成しております。

これらのマークが示された場合の合理的配慮の例ですが、こちらの参考資料3の10ページをご覧ください。

ここには、人混みや順番を待つことが苦手な方への合理的配慮の例が記載してあります。事例は、実際の窓口における、ごく初期の対応から始まり、部屋の環境ですとか、相談時の落ち着いてられない状況と、だんだんと細かい対応となるよう、順番を整えました。

また、一般の方でも、こういった合理的配慮が必要な方が、どういう不自由さで、どういう状況が表れている方であるかがイメージしやすいように、左側に、人混みや声掛けが苦手な方、順番を待つことが苦手な方、多動で落ち着きがない方、見通しが持てないと不安になる方、などの具体例を示しています。

資料3に戻っていただきまして、2、モデル実施の概要です。

まず、(1)モデル実施のねらいですが、1点目として、実際に、合理的配慮の提供に際し、マークや主な合理的配慮の事例集が効果的であるか、合理的配慮の提供が容易になったかを検証するために実施するものです。2点目として、モデル実施を通じて、障害者等や事業者から、マークを利用した際の効果のほか、全国にこの取組みを広めることに関する意見も収集することをねらいにしています。

次に、(2)モデル実施の概要、モデル実施のエリアですが、「幕張新都心地区」で実施しております。なお、一部、検見川浜地区の企業も参加しております。

次に、参加者ですが、千葉県版の「ヘルプカード」、こちらですが、これをお持ちの障害者などで、参加は自由としております。

周知としては、千葉県内の主な障害者団体を通じて、障害者向けの「チラシ」、参考資料4としてお配りしておりますが、障害者団体の方へ配布、もしくは保健福祉センターの窓口で障害者の方へ配布し、周知を行っています。

次に、幕張新都心地区等の協力企業、モデル実施に参加する事業者側ですが、幕張新都心地区の商業施設・小売店、飲食店など、障害のある方の利用が考えられる施設・店舗などに、協力を募ったところ、記載の10社にご協力いただけることになりました。

次に、モデル実施の期間ですが、本年11月12日月曜日から、11月30日金曜日までございまして、現在、実施中です。

では、裏面をご覧ください。エ、モデル実施の手順です。一番上の枠、参加者の事前準備をご覧ください。

①ですが、援助を必要としている障害のある方や支援者の方などの事前準備として、千葉県内の各市町村の障害保健福祉窓口や各健康福祉センターの窓口で先ほどの「ヘルプカード」とモデル実施の「チラシ」を入手します。

入手したヘルプカードの裏面に、チラシに掲載しているマークのうち、必要な支援を示す文字マークを切り取って貼り付けます。そして一言、支援してほしい内容をご記入いただくということでカードを作ってください。

②ですが、協力企業は、従業員に文字マークと事例集を周知、先ほどの「STEP1」を、職員・スタッフの皆さんにご一読していただくとともに、実施期間中、参考資料5のとおり、掲示物を、入口・受付窓口の周辺に掲示していただくことを準備いたしました。

なお、囲みの下の※印にございますように、千葉市のホームページに、開始日前から協力企業の一覧を公開することとし、モデル実施直後から利用できるように、事前周知に努めました。

次に、矢印を進んで、実施の囲みをご覧ください。

①ですが、障害者やその支援者は、幕張新都心の協力企業の店頭や窓口でマークを見せて、支援内容を申し出ます。

②ですが、マークを示された協力企業の従業員は、「〇〇ですね。〇〇しましょうか」と声をかけます。

③ですが、双方が話し合って対応を決め、合理的配慮が提供されます、という手順とな

ります。

次に、効果測定の囲みですが、

①、障害のある方も、協力企業の従業員の方も、このモデル実施への評価、気付くきっかけになったとか、声をかけやすくなったなどについて、千葉市のホームページに設置したアンケートフォームで、千葉市に送付していただくこととしました。

ここで、参考資料4のチラシをご覧ください。

このチラシは、障害者のある方に配布したのですが、裏面に、障害のある方が、協力企業の従業員の方に示す「ヘルプカード」の作成例を掲載しています。

足の不自由な方が、あまり長い距離を歩くことなどが苦手なために、入口側の席を用意してください、と記載した場合を掲載しています。

例えば、レストランを利用する時ですが、入口の側の席を用意してください、といった要望、いわゆる合理的配慮が求められます。このカードに記載されている内容を踏まえ、支援を求められた飲食店の従業員の方は、そこの吹き出しにありますように、歩行のマークで、何が不自由なのか、そしてカードに記載されている文章で、入口側の席を用意することが、合理的配慮だということがわかります。

そこで、障害のある方に「席は入口の側の近くの、こちらでいいですか」と投げかけていただくことを示しています。

つまり、このヘルプカードが示されたら、一般の方は、裏面の要望を確認する、そして、一緒に対応を考える、ということです。

これまでの窓口対応と比べまして、ヘルプカードに、この文字マークとともに支援してほしいことが記載されているので、とてもスピーディに、相手が求めている支援に対応できる、と考えております。

既に、接客を行っている、多くの商業店舗においては、これは普段のお客様との対応で実践されていることと考えておりますが、ちょっと工夫して、誰でもわかりやすくなるための文字マークということです。

モデル実施の終了後にアンケートの結果をまとめまして、九都県市の検討会で検証したうえで、この文字マークの効果的な利用方法・周知方法を検討して参る予定でございます。

説明は、以上でございます。

(田辺部会長) ありがとうございます。ただ今の説明に対して、ご質問やご意見はございますでしょうか。

はい、島田委員お願いします。

(島田委員) 手をつなぐ育成会の島田です。このヘルプカードのモデル実施について、息子と一緒にやってみました。息子は言葉によるコミュニケーションは取れないのですが、困ったらヘルプカードを出しなさいというようにして最初から見せずにいました。

CDを探していたのですが、場所がわからない時に、普通だったら、あちらですと言って手を指されると思うのですが、それだと息子はたぶん場所がわからないです。従業員の方に周知されているということもあってか、わざわざ、その場所まで行って、その商品と一緒に取って、商品を購入できたということがありました。たまたま、空いている時間

に行ったので、余裕を持って見守ることができたのですが、混んでいるところなどでは、遠慮してしまうという声もあって、なかなかそういうときの実践的にはできないということが感想としてありました。

(田辺部会長) ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

高山部会長職務代理。

(高山部会長職務代理) 私も、イオンモールに行ったのですが、祭日に行ったら、ものすごい人でした。そこでは、気の毒でなかなか出せない、なかなか使えなかったです。そんな中で使える方法がなんとか考慮出来ればと思いました。

(田辺部会長) はい、事務局、お願いします。

(柏原障害者自立支援課長) 島田委員、高山部会長職務代理、貴重なご意見ありがとうございます。また、参加いただいてありがとうございます。

このカードとマークは、普段から使われて、理解されていかないと進まないことだと思います。人ごみだと声をかけづらいのは、おそらく千葉市に住んでいる方はみなさんそうだと思います。その中でも、どうしてもちょっとここはという時にはぜひ使っていて、このカードを見たら、その方のニーズはわかる。そして、やれる範囲で対応する。これがまさしく、この取組みの一番の良いところだと思います。

今おっしゃられた2名の委員の方も、今までですと、障害者手帳を見せるとか、障害の説明をいちいちしなければいけなかったと思いますが、それをやらなくて済む。つまり障害者云々ではなくて、容易にお客様のニーズが示されるという取組みということで、今後、慣れてきたら、人ごみでもチャレンジいただいて、相手の接客のスキルもアップすることですし、ぜひこれを機にできるだけ皆さんの目に留まるように利用を促進していただければと思います。本当にありがとうございます。

(田辺部会長) はい、他にご意見等ございますでしょうか。

はい、佐久間委員。

(佐久間委員) 弁護士の佐久間です。合理的配慮については、我々、障害のある方と関わっている者はある程度イメージできるのですが、やはり一般の方ってなかなかイメージできないと思います。そこで、絵というか写真をたくさん事例集などにつけてもらえると。例えば、犬でもこういうカバーをつけているのが盲導犬であるとか、杖でもいろんな形があるので、写真をたくさんつけたほうが分かりやすいかなと思いました。特にお手洗いの写真がすごくいいと思います。いろんな種類があることを、皆さんきっと気が付いてくださると思います。なんでこんなに広いのだろうとかきつと疑問に感じていると思います。ちょっとした説明というか、豆知識のようなことを工夫して書くといいかなと思いました。以上です。

(田辺部会長) はい、事務局からお願いします。

(柏原障害者自立支援課長) ご意見ありがとうございます。

この事例集を九都県市の検討会でまとめる際には、千葉市と同じように、東京都も神奈川県もこういった事例集を持っておりまして、その9つの都県市のものを全部まとめてA4版1枚で収めようということでやりました。一般の方が手に取りやすい気づきのチェ

ック集という形で行こうじゃないか、完全に網羅したマニュアルになると手に取ってもらえないんじゃないかということで、こういった形にさせていただいております。

ただ今、佐久間委員からご指摘がありましたように、多機能トイレだけはイメージが全くわからない。その機能が必要とされているということがとても分かりづらいです。そこで、そういうトイレを必要とする人もいるんだという注意喚起にもなるので、写真を掲載したところです。

さらに、今回のアンケートの結果で、このSTEP 1の事例集が、非常に使い勝手のいい基礎ベースのものということになれば、これをできれば各企業や店舗のオリジナルバージョンにするというように進化させていけば一番いい接客になるのではないかと、期待しながらモデル実施をしているところでございます。

ご意見ありがとうございました。

(田辺部会長) 視覚的イメージの方が、さらによく分かりやすくなると思うので、検討をよろしくお願いします。

他にございますでしょうか。

はい、木村委員。

(木村(辰)委員) 養護学校の木村と申します。モデル実施という段階ですので、まだ学校、教育委員会の周知というところの段階でないのかもしれませんが、今後ヘルプマーク、ヘルプカード、文字マーク等の周知を広げていくという意味では、教育というところが非常に大きな役割を果たすのではないかと思いますので、今後、教育委員会とも連携をとって進めていただければありがたいと思います。

(田辺部会長) 事務局お願いします。

(柏原障害者自立支援課長) 木村委員、ご指摘ありがとうございます。

少し補足説明をさせていただきたいと思います。資料3の裏面をご覧ください。囲みの参加者の事前準備でございます。先ほどご説明したところは、STEP 1になります。この事例集を使ってカードを見たら対応するということですが、次のSTEP 2として「障害種別ごとの理解を深めて対応する。」となります。ここでは障害特性に応じた留意点など、例えば何々障害ということの特徴を覚えていただく。そしてSTEP 3として「障害を理由とした差別が禁止されている理由を理解して対応する。」。つまり、障害者差別解消法の趣旨への理解を深めるという順番となります。今後、色々な方面に障害者理解を深める順番としても提案する予定でございます。実は今年の9月に、千葉市の総括主幹会議という場でこのSTEP 1、2、3について伝達をしました。各主管課これは教育委員会も併せてですが、STEP 1、2、3をモデル実施にかかわりなく、覚えやすいシステムだろうということで、職場への周知をお願いしているところでございます。

今後も教育委員会と協力して障害者理解が深まるように努力して参りたいと思います。以上でございます。

(田辺部会長) ありがとうございます。

他によろしいでしょうか。

児童生徒に周知するということは、その保護者の方にも周知するということにもつなが

りますので、ぜひ協力してお願いしたいと思います。

それでは、他にご意見等ございますでしょうか。

はい、高山部会長職務代理。

(高山部会長職務代理) 今、障害者自立支援課から委託を受けて、身体障害者連合会では福祉講話という事業を、小学校を対象に行っているのですが、その中で、自分が行った時にはヘルプカードを子どもたちに示して、こういうのを持っている人たちがいたら優しい声かけをしてほしいと子どもたちに話しています。

すると、子どもたちは理解力がいいとか素直とか、受け入れてくれる。中には、いいんだよと断られる時があるが、そこで嫌な思いをしても、それはわずかで、ごく一部の人なので、ぜひ次の人にやさしく声かけてくださいということで、福祉講話で頑張っております。そのうちにやさしい大人が増えてくれればと思っております。よろしく願いいたします。

(田辺部会長) どうもありがとうございます。

事務局の方はどうぞよろしくお願いします。

他にご意見等ございますでしょうか。

それでは、以上で、議題の(3)を終わります。

次に、議題の(4)、「その他」ですが、事務局から何かありますか。

(柏原障害者自立支援課長) 特にございません。

(田辺部会長) では、以上で本日予定されていた議題は、すべて終了いたしました。

なお、本日の会議の議事録の作成につきましては、事務局及び部会長にご一任願います。

これをもちまして、平成30年度第1回障害者差別解消支援部会を終了いたします。どうもお疲れ様でした。

(山内障害者自立支援課長補佐) 委員の皆様、本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。お忘れ物のないよう、今一度、ご確認ください。本日は誠にありがとうございました。

午後8時32分閉会